

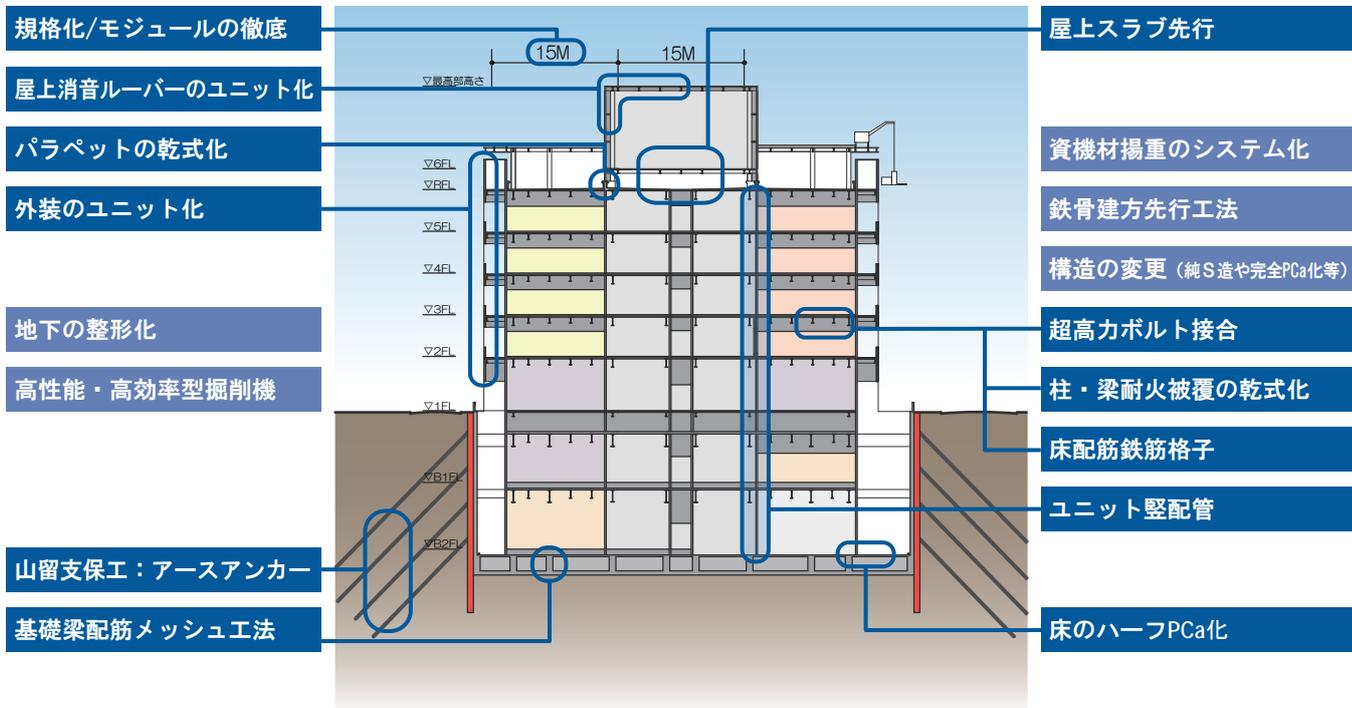
工期短縮ケーススタディ よいものを適正価格で速くつくりたい

『速く』 工期短縮を実現するために

工期短縮手法の適用事例

事業の競争力を保つため工期短縮が求められる場合もあります。大林組は総合力を尽くして工期短縮に挑み、お客様の期待に応えてきました。まずはご相談ください。事業スケジュールに見合った工期短縮プランを提案します。

工期短縮手法の適用事例



スピードとコストとクォリティのベストバランスをめざして

短工期だから、ローコストだから品質を落としては意味がありません。スピードとコストとクォリティのニーズを同時に満足させる手法の一部をご紹介します。

プロジェクトに応じて、最適な手法を組み合わせでご提案します。

施工時の資機材揚重のシステム化で工期短縮

ロジスティックシステム

現場の資機材搬出入のために高効率ロジスティックシステムを構築し、工期を短縮します。



完全PCa化で大幅な工期短縮

LRV工法(エルアールブイ工法)

柱梁接合部まで完全にPCa化することで、従来のPCa工法に比べて大幅な工期短縮と高品質を実現します。



外装及び鉄骨・設備のユニット化で工期短縮

先組みユニット化の推進

工場あるいは作業ヤードで部材を先組みユニット化することにより、組立の高精度化と均質化をはかり、揚重の効率を向上します。

